NOTICE サポセンからのお知らせ

● 市民活動を「知る」時間 ハジマルフクラムプロジェクト

日 時：11月28日(土)午前10時半～12時半
内 容：仙台で活動している２つの団体を招き、活動をはじめたきっかけから現在にいたるまでのお話しを聞くトークイベントです。
ゲスト：NPO法人キッズドア 對馬良美さん
地域生活支援オレンジねっと 荒川陽子さん
場 所：仙台市市民活動サポートセンター 研修室５
対 象：市民活動やボランティアなどに興味のある個人やグループ
参加費：500円(ワンドリンク)
申込み締切：11月27日(金)まで
申込み・問い合せ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
Mail sendai@sapo-sen.jp
メールでお申込みの方は、件名を「ハジフク参加申込」として、氏名・年代・住所・電話番号をお知らせください。

● 市民活動を「体験する」時間 ちょっと。ボランティア

日 時：12月12日(土)午後2時～午後4時
内 容：「地域や社会のために何かしたいけれど、何ができるか分からない」。そんな方々にオススメです。今回のボランティア活動は、仙台JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)と、使用済み切手の整理作業を行います。仙台JOCSは、１人でも多くの人が健康に暮らせる世界になることを願い、アジア・アフリカの人々に様々な医療支援を行っています。
場 所：仙台市市民活動サポートセンター 研修室３
定 員：10名
参加費：無料
受付開始：11月6日(金)から
申込み・問い合せ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp
メールでお申込みの方は、件名を「体験する時間」として、氏名・年代・住所・電話番号をお知らせください。

● 初めての市民活動を応援します「初めてのミニイベント」と「初めての広報」

日 時：12月5日(土)
「初めてのミニイベント」午後1時半～午後2時半
「初めての広報」午後3時～午後4時半
内 容：市民活動初心者の皆さんを対象に、ミニイベント(※)の企画から運営まで、広報の基本について60分～90分で学べる講座をそれぞれ開催します。どちらか一方だけでも、両方でも受講可能です。
※ミニイベントとは、講演会や研修会、交流会、活動体験会など、外部の人の参加も想定される定員数名～100名、予算10万円未満の企画。
場 所：仙台市市民活動サポートセンター研修室５
定 員：各20名
対 象：これから市民活動を始めようと考えている方、新しく団体・グループを立ち上げた方、新たにミニイベントの企画を予定している団体・グループの方、アイディアを実行に移せずにいる方、広報の経験のない団体・グループの方、市民活動の広報について知りたい方など。
参加費：無料
申込み・問い合せ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp
メールでお申込みの方は、件名を「初めて講座」として、氏名・年代・住所・電話番号、受講を希望する講座名(「初めてのミニイベント」「初めての広報」)をお知らせください。

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちの拠点施設です。

このようなご相談おまかせください。

●市民活動の立ち上げ、法人格の取得、団体運営、組織運営などの相談
●協働についての相談
●復興支援活動、シニア活動・セカンドライフなどの相談

今月の休館日 ： 11月11日(水)・11月25日(水)

今月の表紙

自らを身体表現者として、社会をつなぐ場を創造する仕事をしたいという千田優太さん。ダンス幼稚園にやってくる子どもたちの喜ぶ笑顔がみたくて、出演者との調整やステージの設営に園内を駆け回っていました。

●情報ボランティア@仙台
https://kacco.kahoku.co.jp/author/volunteer16

開館時間 月曜日 ― 土曜日 9:00-22:00 日曜日・祝日 9:00-18:00 ／休館日 毎月第２・第４水曜日（祝日の場合は翌日木曜日）年末年始

HP http://www.sapo-sen.jp
Blog http://blog.canpan.info/fukkou/
Twitter @sensapo

「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。

▶ぱれっと読者アンケートにご協力お願いします。
サポセンホームページからアクセスいただくか、
携帯電話等でQRコードを読み取ってご利用ください。

発行 仙台市市民活動サポートセンター
〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西５番出口すぐ
発行日 2015年11月1日
編集 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 菊地 竜生 太田 貴 菅野 祥子 葛西 淳子 松村 翔子

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。［指定管理期間2015年4年1日～2020年3月31日］

ぱれっと 11

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2015 No.195

“ぱれっと”には、サポセンにいろいろな人が集まり、それぞれの色（個性）が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月のワクワクビト

踊りでつくる一体感 “幼稚園”をコミュニティの核に

ダンス幼稚園 代表
千田優太
YUTA CHIDA

幼稚園が瞬く間に「劇場」と化しました。教室でバレエを踊る人、園庭で曲芸を披露する人。あちこちで多様なパフォーマンスが続きます。園児も保護者もすぐにノリノリ。一緒にリズムを刻んだり、身体をくねらせたり、踊る者と見る者の境を超えた一体感が園を包みます。

幼稚園などを会場にダンスの魅力を伝えるから、名付けて「ダンス幼稚園」。若林区在住で、呼び掛け人のプロデューサー千田優太さん(35)は「ダンスの面白さ、多彩さを伝えたい」と話します。きっかけは2011年の東日本大震災。悲しみや不安を抱えながら、大人の顔色をうかがって気丈に振る舞う子どもたちに「ダンスで心の自由を取り戻してほしい」と立ち上がりました。

同年秋の始動以来、宮城県内各地で20回を公演。「一緒に歌い踊れば、子どもも大人も仲間になる。そんなつながりがいざという時、助け合いの核になれば」。震災から4年半、災禍から生まれた試みはいま、地域に新たな連帯を育む仕掛けになろうとしています。

取材・文：高橋直道(東北大学2年)
歳桃詩穂里(東北学院大学3年)

ダンス幼稚園実行委員会
連絡先 Blog http://dance-youchien.blogspot.jp ／ Mail danceyouchien@gmail.com

ダンス幼稚園を開くのは、千田さんを代表とする有志の実行委員会。県内外で活躍する多様なジャンルのダンサー 100人超が名を連ねています。企画は１回１時間半前後。軽食などを共にする場合を除き、参加は基本無料です。音響機材のレンタル代や県外出演者の交通費など、開催費用は助成金や寄付が頼り。ダンス幼稚園は多くの人の参加と支援を待っています。

特集

被災者支援からはじまる、

地域づくりの可能性

特集 被災者支援からはじまる、地域づくりの可能性　宮城野区高砂地区

2015年7月20日宮城野区高砂市民センターで開催された「平日夕涼みフェス」。老若男女を問わず大勢の人が詰めかけ、出展ブースやステージで演奏される音楽を楽しみました。このイベントを企画実施したのは、「i-くさのねプロジェクト」を中心とした地元有志の実行委員会。地元住民延べ1,000人を集客した成功の裏には、震災後、培われた地域との連携と協力がありました。

i-くさのねプロジェクト
代表 砂子啓子（すなこ けいこ）さん　スタッフ 金子直美（かねこ なおみ）さん

×

高砂市民センター
主任 関さき子（せき さきこ）さん　職員 本名紀恵子（ほんめい きえこ）さん

被災地と佐賀の支援の橋渡し

i-くさのねプロジェクト代表の砂子啓子さんは、仙台市泉区に暮らす子育て中の主婦です。東日本大震災直後、当時4歳と2歳の息子を連れ故郷の佐賀県に母子避難しました。避難はしたものの、「東北で被災した人たちのために何かしなければ」という思いに駆り立てられ団体を設立。佐賀で支援金を集めたり、知人を通じ被災地に物資を届ける活動を始めました。

震災から半年後、仙台に戻った砂子さんでしたが、被災者支援をしようにも決まった当てがあるわけではありませんでした。そんな時、知人の紹介で高砂地区で被災者支援活動をする「かむり川絆の会」代表に出会います。砂子さんは「甚大な津波の被害を受けた宮城野区での活動に躊躇することもありましたが、絆の会の方々の後押しもあり、少しずつ地域に受入れられていきました」と振り返ります。また、自ら被災しながらも支援活動に尽力する住民たちの姿を見て、「被災者だけでなく、支援を続ける人たちも支えていきたい」と強く思うようになったと言います。

現在も、佐賀からの支援を被災地につなぐ活動を継続しています。

被災地の市民センターとしての役割

宮城野区高砂地区の市民センターや児童館へと活動拠点を広げていった砂子さん。その中の1つ、高砂市民センターはJR仙石線陸前高砂駅から徒歩10分程のところにあります。東日本大震災時は、1,200名以上の避難者が集まり、支援活動の中心的役割を担いました。震災後は、町内会や地区社協、民生委員などと協力しながら、様々な被災者交流支援活動を行なっています。センター職員の関さんは、「被災した住民を元気にしたい、地域を盛り上げたいという思いでいっぱいでした」と話します。「地域のために何かしたいという相談があれば、出来るだけその思いに応える方法を探しました」と同センターの本名さん。i-くさのねプロジェクトを始めとする様々な団体や地域住民らと知恵を持ち寄り、地域への思いを実現するためのサポートをしてきました。

震災から4年半、復興支援コンサートや子育て中の親子を支援するイベントなど、住民主導の企画を支えてきました。「高砂市民センターに来れば何か楽しいことがあると、地域住民に定評があるんです」とi-くさのねプロジェクトスタッフの金子さんは、センターの企画力、広報力に絶大なる信頼を抱いています。

図解 対話が育む住民主体のまちづくり

■市民センターとは
おおむね中学校区毎に設置されており、仙台市内に60館あります。生涯学習や地域住民の活動の拠点として、地域と密接に関わっており、生涯学習活動の推進はもちろん、住民同士の交流の場づくりから、自治活動が活発になることを目指しています。
■地区社協とは
地区社会福祉協議会（略称：地区社協）は、地域の福祉課題の解決や福祉のまちづくりの実現のために、見守り等の安全確認活動や日常生活支援活動等、さまざまな活動を展開する自主組織です。各地域の実情に応じて、町内会・自治会、民生委員や子ども会等の地域住民や団体によって構成されています。

地域における協働の場づくり

「地域のために何かしたい」と思った時、対話からまちづくりが始まります。高砂地区では、被災者支援から始まった出会いやつながりが対話を生み、住民の自発的な活動を活発にしていました。高砂市民センターを舞台に、思いを持った人同士が世代や地域を越えてつながる環境が育くまれています。

（取材・文　佐藤健太朗）

■連絡先
●i-くさのねプロジェクト
TEL 080-2773-0181　Mail hana.sunako316@gmail.com
HP http://www.kusapro.com
●高砂市民センター
〒983-0014 仙台市宮城野区高砂1-24-9
TEL 022-258-1010

ここチェック 佐賀県から東北へ NPO法人 さが環境推進センターの取り組み

佐賀県の環境活動を推進し支援する活動の一環として、東日本大震災の生活再建支援に取り組んでいます。2011年4月から佐賀市内に、毎週火曜・土曜の2日間営業する「くらし塾2号店」を開店。市民から不用になった家具や日用雑貨を無償提供してもらって販売し、店の売上金を全額、震災被災地の支援に充てています。これまで震災で佐賀に避難してきた人たちには、無料で生活用品を提供。売上金は被災地で活動する団体などに毎月寄付してきました。その寄付先の1つが、仙台市の「i-くさのねプロジェクト」です。距離は離れていても、人と人との心をつなげる支援が続いています。

●NPO法人さが環境推進センター
〒849-0917 佐賀市高木瀬町大字長瀬1750　TEL 080-1719-8490

お役立ち本 仙台・福住町方式　減災の処方箋
1人の犠牲者も出さないために
菅原康雄、三好亜矢子・著者／新評論・発行

東日本大震災の時、宮城野区福住町町内会では、人命に関わる大きな被害はありませんでした。その背景には、「1人の犠牲者も出さない」を目標に、防災訓練に「祭り」の楽しみを取り入れ、日頃から住民が主体的に取り組む町内会の活動がありました。いざというときに互いに助け合う「福住町方式」の事例を見ながら、日常生活の中で私たちは何ができるか考えることができる一冊です。

コトハジメ 11月29日（日） 環境問題について楽しみながら知ろう！

環境活動団体・企業・市民などが連携して、毎年20ブース以上が出展する「環境フォーラムせんだい」が今年も開催されます。会場は、せんだいメディアテークのオープンスクエア。環境問題について楽しく学べます。詳しくは、主催のFEEL Sendai 杜の都の市民環境教育・学習推進会議ホームページをご覧ください。
http://www.feel-sendai.jp

▲昨年の「環境フォーラムせんだい」の様子。

インフォメーション 市民活動を体験する時間「ちょっと。ボランティア」

普段の暮らしの中で、「おかしいな」「こうしたらもっと暮らしやすくなるのに」と感じることはありませんか？でも「何から始めていいのかわからない」「地域や社会のために何かしたいけれど、何ができるのかわからない」という方々に、実際に市民活動を体験する機会をつくりました。ボランティアや市民活動と聞くと、敷居の高さを感じたり難しく感じたりするかもしれません。また、一人で参加する勇気が出ないという方も、サポセンスタッフが同行するので安心です。ボランティアに参加した方からも「初めて参加したけど大勢でやって楽しかった」「いろいろな世代の人たちと交流できた」「またやってみたい」という声を聞きます。まずは最初の一歩を踏み出してみませんか？ご参加をお待ちしております。

▲7月25日に実施した、NPO法人アマニ・ヤ・アフリカ事務所での活動風景